



南米【ブラジル】

1 農・畜産業の概況

全国の農業経営体 520 万戸の所有面積は、3 億 5480 万ヘクタールとなっており、このうち 7670 万ヘクタールが農耕地、1 億 7000 万ヘクタールが牧草地として利用されている。2008 年は農耕地の6割以上に当たる 4740 万ヘクタールが穀物生産に充てられ、過去最高(1 億 4000 万トン)となったほか、サトウキビ 700 万ヘクタール、オレンジなど果物類 310 万ヘクタール、コーヒー 220 万ヘクタールなどの生産が行われた。

世界経済の成長に伴う食料需要の増加につれて、農作物輸出額は大豆部門や食肉部門などで需要が増加、国際

市場価格が上昇したことなどから、総輸出額の 36.2%を占める過去最高の 719 億ドルに達した。これに対し、輸入は小麦を中心に前年比 35.6%増の 118 億ドルとなった。この結果、農産物の貿易収支については、前年比 2.9%増の 601 億ドルと過去最高になった。2008 年の主な輸出地域は、EU が 237 億ドルと最大であり、次いで 169 億ドルのアジアであった。なお、国別では大豆需要が大幅に増加した中国が最大の輸出先となった。

表1 農場面積と農場数の推移

	1975	1980	1985	1996	2006
農場数(千戸)	4,993	5,160	5,802	4,860	5,204
農場面積(千ha)	323,894	364,853	374,925	353,611	354,800

資料: ブラジル地理統計院 (IBGE)

2. 畜産

(1) 牛肉

肉牛生産は約 1 億 7000 万ヘクタールの広大な牧草地を利用した放牧肥育が中心で、耐暑性に優れたインド原産のゼブーに属するネローレ種を主体に飼養されている。

2008 年は、輸出量が前年に比べ減少したものの、輸出額は増加した。一方、国内価格は生体1アローバ(15 キログラム)当たり 84.9 レアルとなり、過去最高であった 2007 年の同 60.8 レアルを更新した。

家畜衛生に関しては 2007 年に、南部のサンタカタリーナ

州が OIE (国際獣疫事務所) によるブラジル初の口蹄疫ワクチン非接種清浄地域のステータスを取得し、東アジアなど新たな輸出市場の獲得の可能性が期待された。さらに、2008 年には、マットグロッソ州やサンパウロ州など 14 州などがワクチン接種清浄地域となっている。また BSE ステータスについては、チリ、米国、カナダ、スイス、台湾とともに、管理されたリスク国と評価された。

また、食肉パッカーの規模拡大が進み、2008 年は外国企業の買収統合が進んだ。業界第 1 位の JBS 社は、米国の大手牛肉パッカー Smithfield Beef を 5.6 億ドル、豪州の TASMAR を 1.5 億ドルで買収した。一方、第 2 位のマルフリグ

社は、現地子会社を通じてアルゼンチンの食肉業界をリードするMIRABの株式を100%取得し、さらに、北アイルランドに本部がある鶏肉パッカーMOY PARKを買収した。ブラジル社会経済開発銀行(BNDES)による国内外の事業拡大を目指す国内企業への融資が、ブラジルの食肉パッカーが国外での買収を積極的に行っている背景の1つとみられる。

2008年の牛飼養頭数は2億229万頭となり、2007年(1億9975万頭)に比べ1.3%増加した。これは、2007年から牛肉価格が上昇し、肥育経営の収益が回復したことから、生産意欲が向上したためとみられる。

飼養頭数を州別に見ると、マットグロッソ州の2601万8000頭(全体の12.9%)を筆頭に、マットグロッソドスル州2237万頭(同11.1%)、ミナスジェライス州(同11.1%)、ゴイアス州(同10.1%)が4大生産地域となっている。

①飼養動向

図1 牛飼養頭数(2008年)

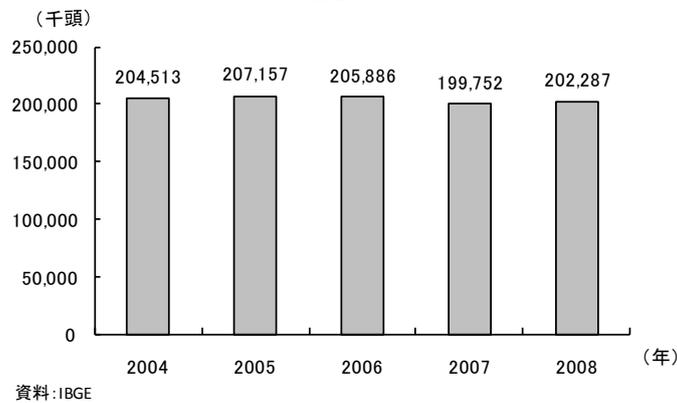
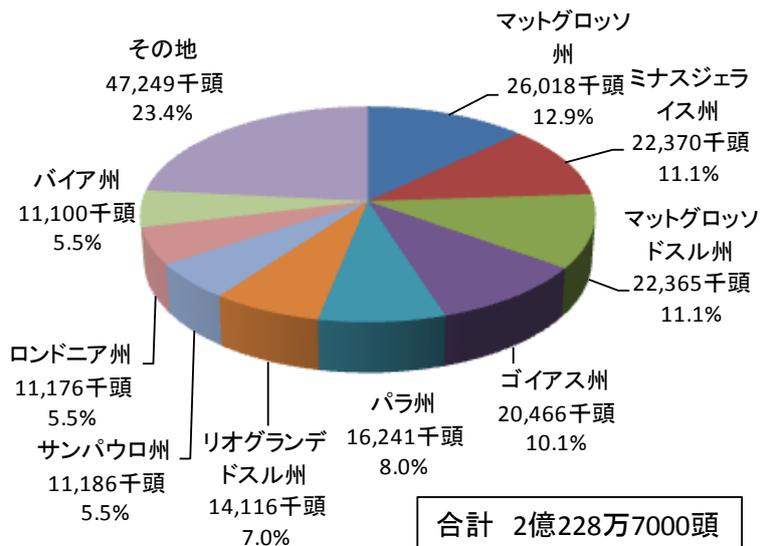


図2 州別飼養頭数(2008)



② 牛肉の需給動向

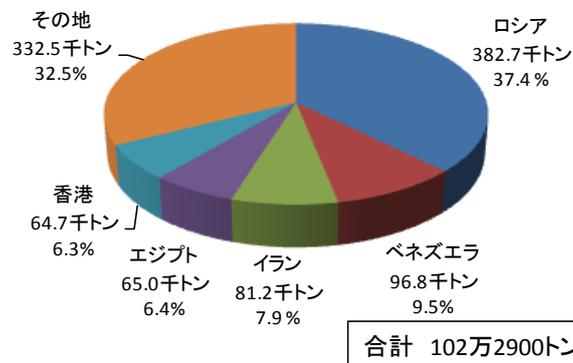
ア 生産

2008年の牛肉生産量は、キャトルサイクル(肉牛経営の収益性の変化をもたらす、循環的な牛群消長)によると畜頭数の減少などにより、前年比12.3%減の883万9000トン(枝肉重量ベース)となった。

イ 輸出

2008年の牛肉輸出量は、EUがブラジル産牛肉の輸入を制限したことなどから、前年比16%減の191万9000トン(枝肉重量ベース)となった。しかし、輸出額は、輸出単価の上昇から、前年比16.3%増の49億ドルとなった。主な輸出先はロシアとベネズエラであり、この2カ国で生鮮肉の輸出量の5割近くを占める。

図3 生鮮肉(冷凍、冷蔵)の輸出先国(2008)



資料: ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)
注: 製品量ベース

ウ 消費

2008年の牛肉消費量は、生産量の減少などにより、前年比11.2%減の692万トンとなった。1人当たりの年間消費量は、前年と同程度の36.9キログラムとなった。

表2 牛肉需給の推移

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
生産量(千トン)	7,139	7,569	8,674	9,229	10,183	10,082	8,839
輸入量(千トン)	74	66	54.9	52.5	27	31	30
輸出量(千トン)	965	1,259	1,370	1,923	2,178	2,285	1,919
1人当たりの年間消費量(kg)	35	34	34	36	36	37	37

資料: ブラジル農務省、ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)
注: 枝肉重量ベース

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは生体取引が主体であるため、生産者販売価格は生体15キログラム単位(アローバ)で示される。2008年は、と畜頭数の減少により価格が上昇し生体1アローバ(15

キログラム)当たりの年間平均価格は、前年を39.6%上回る84.90リアルとなった。

また卸売価格は、前年比27.8%高の枝肉1キログラム当たり5.97リアルとなった。

(2) 養鶏・鶏肉

2006年は、輸出先国における鳥インフルエンザ発生による鶏肉需要の減退に対処するため、生産調整を行ったことから7年ぶりに生産が前年割れとなったが、2007年には鶏肉需要が回復したため、生産・輸出ともに大幅に増加した。続いて2008年も、生産量、輸出量ともに過去最高を記録した。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産

2008年のブロイラー用ひなのふ化羽数は、前年比6.1%増の54億6850万羽となった。2008年の鶏肉生産量は、同7.1%増の1103万3000トンとなり、過去最高であった2007年を上回った。このうち、3割強が輸出に向けられた。

イ ブロイラーの輸出

2008年の鶏肉輸出量(骨付ベース)は、アジア、中東などの主要市場向けの増加により前年比10.9%増の364万5000トンとなり、過去最高を記録した。また鶏肉加工品を含む輸出額も、前年比37.4%増の63.5億ドルと過去最高となった。これは、輸出量の増加に加え、1トン当たりの輸出単価が、前年を26.7%上回る1769ドルと上昇したためである。

形態別では、前年同様、パーツが全体の約6割、丸どりが約4割となった。2008年の輸出先国は日本が最大で、次に香港とサウジアラビアが続き、この3カ国で全輸出量の37.7%を占めた。

ウ 消費

2008年の1人当たりの年間鶏肉消費量は、国内経済の成長に伴う所得増加により、前年比4.2%増の39.7キログラムとなった。

② ブロイラーの価格動向

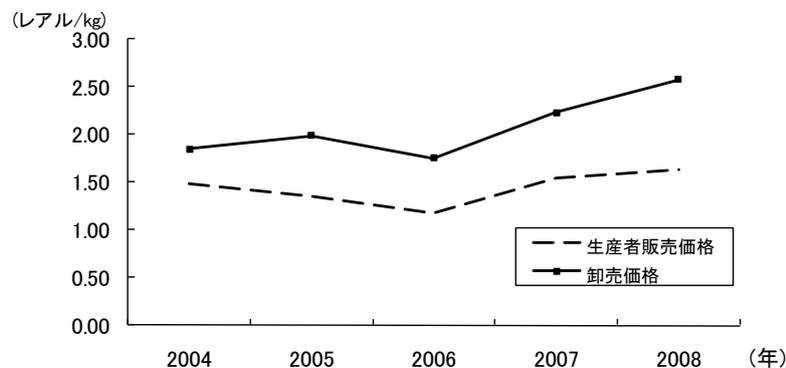
ア ブロイラーの生産者販売価格

2008年のブロイラー生産者販売価格は、生産調整の実施や輸出の増加から、前年を5.2%上回る1キログラム当たり1.63リアルとなった。

イ 卸売価格

ブロイラーの丸どり卸売価格は、前年を15.7%上回る1キログラム当たり2.58リアルとなった。

図6 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



資料: CONAB

3 飼料穀物

世界のトウモロコシ生産の約1割を占めるブラジルでは、パラナ州をはじめとした南部(ウルグアイ国境部)で約半分の生産が行われている。トウモロコシの栽培は夏作と冬作の年2回行われ、夏作はパラナ州、冬作はマットグロッソ州が最大の生産地帯となっている。冬作は大豆の裏作として生産されている。

2008年は生産量が増加したにもかかわらず、輸出量は海外の需要減退により前年の1093万トンより640万トンに減少したため、期末在庫量は、過去最高の1131万トンに増加した。

飼料コストの約70%を占めるトウモロコシの供給は、農業政策の重要項目とされており、毎年特別な対策が講じられるが、2008/09年度農業プランについても1農家当たり融資限度額の引上げ、最低保証価格の改定、内陸部の州の流通を図る助成策などが実施された。

① 主要な政策

2008/09年度農業プランでは、農務省が管轄する一般農業部門に前年比12.11%増の650億レアル、農地開発省管轄下の家族農業強化プログラムに130億レアル、計780億レアルが農業部門に対する融資資金として措置された。前者の内訳は、営農および販売に対する資金として550億レアル、農業投資プログラムに対する資金が100億レアルとなっている。政府管轄下資金の大部分は、前年の金利(年利

6.75%)が据え置かれる一方、1農家当たり融資限度額は全般的に見直された。畜産関連ではトウモロコシ、大豆、牛および水牛飼育、インテグレーションに組み込まれていない養豚、養鶏生産者に対する融資枠を拡大した。また、農業投資関連では持続性ある生産を振興するためのプログラムが新設され、劣化した土地の回復、クリーンエネルギーの生産、環境法令に即した生産システムの導入などが掲げられた。このほか、最低価格保証制度、販売価格保証メカニズム、政府在庫拡充のための買付け、農業保険の拡充、基盤整備などのプログラムが制定された。

② 飼料穀物の需給動向

2007/08年年度におけるトウモロコシ生産量は、前年末に長期的な乾燥気候に見舞われたものの、第1期作の生育が天候に恵まれたため、前年比14.2%増の5865万トンと過去最高を記録した。しかし、輸出量は、EUの穀物生産の回復、主要輸出先であるスペインやイラン向けなどの減少から、前年比41.5%減の640万トンと大幅に減少した。

大豆の生産量も前年度比13.1%増の6602万トンと過去最高を記録した。また、輸出量は大豆(粒)が前年度比3.2%増の2450万トン、大豆油が同1.1%減の232万トン、大豆油かすが同1.5%減の1229万トンとなった。輸出先は、大豆(粒)および大豆油が中国およびスペイン、大豆油かすがオランダ、フランスおよびドイツなどであった。

表4 トウモロコシの需給表 (単位:千トン)

区分/年度	期首在庫	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫
2002/2003	1,208	47,411	801	37,300	3,566	8,554
2003/2004	8,554	42,129	331	38,180	5,031	7,802
2004/2005	7,802	35,007	597	39,100	1,070	3,135
2005/2006	3,135	42,515	956	39,830	3,938	2,839
2006/2007	2,839	51,370	1,096	41,830	10,934	2,541
2007/2008	2,541	58,652	808	44,288	6,400	11,313

資料: CONAB

表5 大豆の需給表 (単位:千トン)

区分/年度	期首在庫	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫
2002/2003	1,134	52,018	1,189	29,928	19,891	4,522
2003/2004	4,522	49,989	349	31,090	19,248	4,522
2004/2005	4,522	52,305	368	32,025	22,435	2,735
2005/2006	2,735	55,027	49	30,383	24,958	2,470
2006/2007	2,470	58,392	98	33,550	23,734	3,676
2007/2008	3,676	66,018	96	34,750	24,500	4,540

資料: CONAB

③ 飼料穀物の価格動向

2008年のトウモロコシ価格は、第2期作の生産量増加や輸出量の減少により、下半期に入って低下し、12月には年間最低の60キログラム当たり17.09リアルとなった。しかし、

平均価格は、上半期までトウモロコシの国際価格が好調であったことから、前年を9.8%上回る同22.42リアルとなった。

大豆価格も同様の傾向であったが、トウモロコシ程価格が低下しなかったことから、年平均では前年を34.4%上回る同43.74リアルとなった。

表6 トウモロコシ価格の推移(サンパウロ州) (単位:リアル/60kg)

区分/年	2003	2004	2005	2006	2007	2008
生産者販売価格	18.32	17.51	15.69	14.06	20.42	22.42

資料: CONAB



サントス港に入る穀物メジャーの貨物車